

八女中・八女高同窓会

(5) 第5号



「再会2010あの頃の私たちへ」

東京大学教授

江崎

浩(高33回)

昨年十月に開催された文化発表会では、全校生徒への講演をさせて頂いた機会と榮譽をいただきました。卒業の年に、アルビントフラー氏の著書『第3の波』と出会い、我々人類が「情報化革命」という新たな大波に向かって行くことを学びました。卒業後の社会は、東西関係から南北問題へとイデオロギーの軋轢から経済と文化の軋轢へとその対立関係が変化し、さらに、すべての社会・産業活動が国際化からグローバル化への本質的な変革が急速に進行しました。社会の価値を象徴するものは、物質的から知識、知恵へと変化しています。我が国が、この三十年間、世界の最先端の地位を維持している源泉は、教育システムの充実にあることは明白で明確

な事実で、ますますの教育の充実こそが、我が国の今後の繁栄と発展に必須なものであり、現在東京大学で教育・研究に關与している者としてもその責任を果たさなければならぬことを実感させていたきました。八女高校の在校生には、素直な眼と心で『質実』、前東京大学総長の学生と社会へのメッセージでもある①本質を捉える知、②先頭に立つ勇氣、③他人を感じる力(『剛健』)を十年単位で培い、社会への責任を果たして欲しいとお願いをしました。東京大学の学生にも、『質実剛健』の精神を醸成し、次世代のリーダーに資する研鑽を積むよう指導をするともに、また共に切磋琢磨しております。卒業(一九八一年)以来三十年ぶりの再会、みなさんきつと

楽しみにされていることかと思えます。今でも、『楳円球』を追いかけた仲間と映画『万獣』を制作した仲間と会う時には、歳を重ねても、いつのまにか三十年前にタイムスリップしてしまえます。いつのまにか、我々は、高校時代の純粹さ、情熱、正義感、希望あふれる野望を失いつつあることを、再認識する必要があります。『青春は年齢とは関係のないものである』ということはいくくの先人が教えています。友との再会は、これを気づかせてくれる貴重な機会の一つなのでしょう。自立(三十歳)と不惑(四十歳)の時期を経た学志(十五歳)の仲間と再会・交歓して、次の『知天命の十年』への元氣を得られんことを期待しています。